

第349回

日本泌尿器科学会新潟地方会

《プログラム》

日 時:平成21年3月14日(土)午後3時00分
会 場:イタリア軒 5階『春日の間』
新潟市中央区西堀通7 025-224-5111

次回 第350回新潟地方会予告

期日:平成21年6月13日(土)

会場:信州大学担当(三大学合同地方会)

演題申込期限:平成21年4月上旬

※ PC発表のみです。

※ 口演時間は、1題7分。討論2分

951-8510 新潟市中央区旭町通1の757

新潟大学医学部泌尿器科学教室内

日本泌尿器科学会新潟地方会

会長 高橋 公太

TEL:025(227)2289/FAX:025(227)0784

15:00~15:45

座長 小原 健司

1. 急性腎盂腎炎治療後に椎間板炎または仙腸関節炎を発症した2症例

立川総合病院 泌尿器科¹⁾ 整形外科²⁾

田所 央¹⁾、諏訪通博¹⁾、金子昌弘¹⁾、池田正博¹⁾、
上原 徹¹⁾、三浦一人²⁾、松葉 敦²⁾

症例1. 64歳女性。急性腎盂腎炎が疑われ12月11日当科を紹介初診。発熱、炎症反応を認め、CTで左尿管結石、左水腎症を認めたため、左尿管結石、急性腎盂腎炎の診断で入院。MEPMの投与で一時、改善したが、再度発熱と右殿部痛が出現、MRIで右仙腸関節炎と診断された。CLDM、MEPM投与で、徐々に改善した。症例2. 75歳女性。腰痛、悪寒あり、当院救急外来受診。CTで右腎盂腎炎と診断され入院した。MEPMの投与で解熱したが、腰痛の改善を認めず、CRP高値が続いた。腰部MRIを施行した所、椎間板炎と診断され、整形外科に転科となった。急性腎盂腎炎治療後に腰痛が改善しない場合、血行性感染による関節炎の合併を考慮する必要がある。

2. 高カルシウム血症を伴った非家族性小児褐色細胞腫の一例

新潟大学大学院腎泌尿器病態学分野

武田啓介、原 昇、新井 啓、谷川俊貴、高橋公太

症例は12歳男児。嘔吐、発熱、意欲減退にて他院小児科受診。高カルシウム血症を指摘され当院小児科に転院。精査・加療中に右副腎褐色細胞腫を指摘され当科へ転科、腹腔鏡下右副腎摘出術を施行した。病理は褐色細胞腫であった。悪性の可能性は低く、外来観察中である。

3. 妊娠中に診断された浸潤性膀胱癌の1例

JA新潟厚生連刈羽郡総合病院¹⁾、新潟大学²⁾、がんセンター新潟病院³⁾
信下智広¹⁾、羽入修吾¹⁾、武田啓介²⁾、北村康男³⁾

初診時23歳、妊娠14週時に産婦人科で膀胱腫瘍を指摘された当科へ紹介され、膀胱鏡、エコー、MRIで右尿管口部に径1.5cmの広基性非乳頭状腫瘍と右高度水腎水尿管症を認めた。TUR-Bt施行。UC G3、pT2N0M0。人工妊娠中絶の後、がんセンターにてsecond TUR-Bt (T0)。膀胱全摘は行わずにMVAC3コースを行った。再発なく、外来で経過観察中である。妊娠中の膀胱腫瘍としては本邦報告例25例目、浸潤性膀胱癌としては2例目である。

4. 新潟大学医歯学総合病院泌尿器科における平成20年手術統計

新潟大学大学院腎泌尿器病態学分野

新井 啓、安藤 嵩、武田啓介、原 昇、谷川俊貴、西山 勉、高橋公太

平成20年の手術総数は387件（前年376件）でありほぼ横ばいであった。他、一昨年導入のヨウ素125シード線源永久挿入による前立腺癌密封小線源療法は20件であった。平成20年9月にはドナー腎採取術の術式を変更した。従来は腹壁吊り上げ・後腹膜鏡補助下で行っていたが、現在は経後腹膜到達法によるハンドアシスト体腔鏡下で行っている。

5. 新潟市民病院泌尿器科における平成19年および20年の手術統計

新潟市民病院泌尿器科 筒井寿基、今井智之、川上芳明

おおさわ小児科医院泌尿器科 大澤哲雄

平成19年は延べ475名の患者に対して479件、平成20年は延べ414名に対して431件の手術（手術室を利用した検査を含む）が行われた。平成19年11月に新病院へ移転し、病床数の減少、電子カルテシステムの導入等の理由から、例年に比し、100件程度手術件数の減少となった。両年とも前立腺針生検法が最多であり、ESWLとTUR-Btが多かった。平成20年は停留精巣固定術が例年に比らべて増加しており、腹腔鏡手術も数件行われた。

15:45-16:30

座長 今井智之

6. 平成20年の当院における癌治療の現状

長岡赤十字病院泌尿器科

石崎文雄、村山慎一郎、小林和博、米山健志、森下英夫

平成20年の新規癌患者数は、腎癌:32人 腎盂尿管癌:11人 膀胱癌:54人 前立腺癌:79人 精巣腫瘍:8人であった。手術は、腎摘出術:24件 腎部分切除術:8件 腎尿管摘除術:11件 TUR-BT:94件 膀胱全摘除術:11件 前立腺全摘除術:18件 両側精巣摘出術:33件高位精巣摘出術:8件であった。放射線・化学療法についても当日供覧の予定。

7. 前立腺肥大症患者に対するナフトピジル 75mgの有効性

新潟大学大学院腎泌尿器病態学分野

水澤隆樹、原 昇、伊佐早悦子、中川由紀、小原健司、高橋公太

前立腺肥大症患者に対してナフトピジルを内服処方した 29 例について検討した。投与 8 週後の評価で、投与量の維持を希望された症例群も増量した症例群も、IPSS、蓄尿症状、排尿症状、QOL で有効性が認められた。ナフトピジル増量群は投与 8 週後には、4 週後に比べ、排尿症状と QOL で有意な変化が認められた。ナフトピジル 50mg で排尿症状に十分な有効性を示さない症例の場合、75mg への増量により症状が改善する可能性が示唆された。

8. 尿道下裂形成術後に発生した尿道皮膚瘻に対する皮膚 Y-V plasty を併用し

た尿道皮膚瘻切除閉鎖術の経験

新潟市民病院泌尿器科 筒井寿基、今井智之、川上芳明

新潟大学腎泌尿器病態学分野 水澤隆樹

遠位型尿道下裂に対して tubularized, incised plate urethroplasty を施行した 4 歳児。尿道皮膚瘻を合併し、皮膚 Y-V plasty を併用した尿道皮膚瘻切除閉鎖術を施行した。瘻孔を中心に円形の皮膚切開を置き、更に円から 3 方向に Y 字状に皮膚切開を延長して、瘻孔切除を行い、瘻孔を縫合閉鎖した。皮膚切開部は V 字型に縫合した。十分な術野が確保され、瘻孔閉鎖後の皮下組織による被覆は余裕をもって行うことができた。尿道皮膚瘻閉鎖を確認し、第 9 病日で退院した。

9. 外来新患を対象とした臓器提供意思に関するアンケート調査

JA 新潟厚生連刈羽郡総合病院 泌尿器科¹⁾、臓器提供院内委員会²⁾

羽入修吾^{1,2)}、信下智広¹⁾、新保義勝²⁾、富川 勝²⁾、小林 勲²⁾、秋山政人²⁾

【目的】①カード所持者・臓器提供の意思を持つ人の把握とカルテ記載、②臓器提供病院の広報を目的にアンケートを実施した。【方法】問診票にアンケート欄を作成し 6 ヶ月間 15～74 歳の新患から回答を得た。【結果】有効回答数は男 248 名、女 155 名。15～49 歳 128 名、50～74 歳 275 名。カード所持者は 15～49 歳で 5 名 (3.9%)、50～74 歳で 2 名 (0.7%)。「臓器提供の意志」は『はい』16%、『いいえ』17%、『わからない』67%であった。【考察】若い世代は臓器提供に関して肯定的で希望が持てた。各科外来での実施を検討中である。

10. 経尿道的前立腺腫核出術の時代になる前に習得すべきことは？

済生会新潟第二病院泌尿器科

吉水 敦、車田茂徳

経尿道的前立腺腫核出術とはHoLEP・平岡式内視鏡手術・TUEBなどである。経尿道的前立腺腫核出術とTUR-Pは前立腺部尿道の抵抗を軽減することにより排尿障害の改善を目指すという点では同じであるが、手技的にはかなり異なる。私達は当院で2006年7月より400例以上のHoLEPをやった経験より、経尿道的な前立腺肥大症手術は今後安い器具で安全に腺腫核出が施行出来れば経尿道的前立腺腫核出術が主流となりTUR-Pは少数派になると考えている。そうなる前に習得すべきこととして、持続灌流式シースに慣れておくこと。loop電極だけでなくポイント先電極やキュレットの使用に慣れておくこと。前立腺尖部の剥離に慣れておくこと。モルセレーターの使用に慣れておくことが重要と思う。

16:30-16:45

【日本泌尿器科学会新潟地方会総会】

※ IT化の説明を致します。

[休憩 16:45-17:00]

お知らせ

日本泌尿器科学会専門医・指導医に必要な新潟地方会参加証は、地方会当日受付に用意しておりますので、必要な先生は受付に申し出て下さい。

サテライトセミナー

日時:平成21年3月14日(土)

17時00分～18時00分

会場:イタリア軒 5階『春日の間』

17時00分～17時10分

〈製品紹介〉

「選択的 α 1A遮断薬 ユリーフカプセル の最近の話題」

第一三共株式会社 甲信越支店

新潟第一営業所 智本 武

17時10分～18時00分

〈特別講演〉

司会 新潟大学大学院 腎泌尿器病態学分野

教授 高橋 公太先生

「前立腺癌の増殖因子とその受容体 -増殖への関与と治療応用-」

広島大学大学院医歯薬学総合研究科 腎泌尿器科学

教授 松原 昭郎 先生

共催 日本泌尿器科学会新潟地方会

第一三共株式会社

※ サテライトセミナー終了後、2階 ローザにて懇親会を行います。